

鏡川流域パートナーシップだより No.43 R5.3.23



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「ぼっちり」のコミュニティで農村環境と人がつながっています！

鏡川流域内関係人口講座受講生の上村優子さんが「子ども食堂がじゅまるの木」をまちのコイン「ぼっちり」のスポットとして立ち上げて活動しています。このプロジェクトは、上村さんが日



頃から運営に関わっている子ども食堂をスポット化したもので、子ども食堂での活動を体験チケットとして発行し、多くの人の参加を呼びかけています。

3月19日(日)には、子ども食堂で使用する野菜を栽培するための畑作業を手伝ってくれる人を「ぼっちり」で募集し、集まった地域の方々や鏡川流域内関係人口講座受講生などと一緒に草引きや種まきを行いました。



毎週木曜に「ぼっちり広報部」がオンラインで開催している「まちのコイン『ぼっちり』を使ってみよう交流会」をきっかけとして、埼玉県川口市でコミュニティ農園を運営している方が「ぼっちり」の取組に参加し、コミュニティ農園「ジモコネファーム」を「ぼっちり」のスポットに登録しています。子ども食堂がじゅまるの木の畑活動当日には、ジモコネファームのメンバーから「ぼっちり」アプリを通じて畑活動への応援メッセージが届きました。また、日頃からお互いの畑の様子を共有するといった交流も生まれています。



ジモコネファームから様々な体験チケットが発行されています！実際に農園を訪れることができなくても、イベントのアイデア募集など、遠方からオンラインで気軽に関われる体験チケットもあります。



鏡川流域内関係人口講座受講生の久保真希さんが発行している体験チケットも要チェックです！久保さんは、鏡川流域でも課題となっている放置竹林問題の解決に寄与したいと、「タケノコ食べて放置竹林解決プロジェクト」を立ち上げました。放置竹林問題に対して「楽しい」「美味しい」という気持ちを持って多くの人に関わってほしいという思いから、竹の面白い活用方法やタケノコのレシピを「ぼっちり」で募集しています。すでに県内・県外のユーザーから、「竹の流しそうめん台を作る」などのアイデアが集まっています！また、子ども食堂がじゅまるの木でタケノコを調理し、子どもたちと一緒に食べるイベントを開催するという提案もあり、今後も「ぼっちり」のユーザーやスポット間でのコラボが生まれそうでとても楽しみです！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android